

### 3. 携帯電話

#### <有害情報を得たときの状況>

出会い系サイトではない、音楽系サイトの中にも出会い系のサイトがあり、そこから男性と交際を始める。

#### <有害だと感じた理由>

全く会ったこともなく、どんな人かもわからないのに、メール（文字上）だけで相手を信じ、交際にまで至ること。

#### <取り組んだ事例>

警察と連携、相談活動（母、子ども）継続、進路相談、各種補助制度の紹介と担当者の紹介や連絡。

#### <行政や業界へ望むこと>

相談員として活動中であるが、知識や、情報に限界がある。関係者に研修をぜひしてほしい。

（島根県・女性・50代）

#### <有害情報を得たときの状況>

携帯電話の普及により、家庭に何らかの事情で居場所を見出せない青少年が安易に同じような青少年と仲間になり、自立できずにいる例を多数見ているが、それを利用して、“出会い”を仲介するサイトがある。

#### <有害だと感じた理由>

18歳以下を連想させる書き込みが見られる。

#### <取り組んだ事例>

このようなサイトについて、小・中学生の保護者に紹介し、子どもに携帯電話を安易に買い与えないよう啓発している。

#### <行政や業界へ望むこと>

携帯電話業界は、販売している端末機がこのようなサイトへつながることをきちんとTV-CMで流すべきと考える。確かに、マナー講座は各社で行っているが、マスメディアを使って、きちんと啓発すべき。販促CMと同量程度、流すべき。

（静岡県・男性・50代）

#### <有害情報を得たときの状況>

携帯電話での迷惑メール。高校受験の時期に、生徒の精神状態がピリピリしている時、迷惑メールが入ってきて「〇分以内に〇人に送らないとお前は死ぬ」など悪質なチェーンメール。

#### <有害だと感じた理由>

友人間のトラブルと本人がパニック状態に陥ることがあり、有害と感じる。

#### <取り組んだ事例>

各種ケータイで迷惑メールが来たら捨てられる番号があり、これを知らせることで対応

している。

<行政や業界へ望むこと>

携帯電話やパソコンの各種サイトについて、現在の中・高校生の親は殆んど有職者で、昼間時間のある高齢者に啓発して青少年への声かけが出来るように、学習の機会があるとよいと思う。

(神奈川県・女性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話にメールで「有料情報サイトへアクセスし、退会処理が行なわれておりません。滞納金が〇円あります」というメールが、青少年に届く。

<有害だと感じた理由>

有料サイトへアクセスしてしまったと勘違いしてしまう青少年が、電話をかけ滞納金を支払ってしまう可能性がある。又支払ってしまった子がいる。

<取り組んだ事例>

このメールは、架空請求の迷惑メールである事を親子に伝えました。

<行政や業界へ望むこと>

どこに相談していいのか、というのをわからない方がほとんどだと思いますので、相談窓口を広めて行って欲しいと思います。

(静岡県・女性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

明らかに中学生と見られる少年たちが街頭補導の時、携帯電話を使い有害サイトの画像を見ていた。注意したらすぐやめたが少年たちは自由に有害サイトにアクセスできる様子であった。

<有害だと感じた理由>

誰でもアクセスできるサイトを見ていた。

<取り組んだ事例>

注意のみ。

<行政や業界へ望むこと>

携帯電話購入の際、保護者以外の同伴を許さない。

(静岡県・男性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話での、学校裏サイトへの書き込みで、個人を中傷する様な書き込みで当人同士のケンカになったり、又、書かれた者が不登校になってしまったとの事を聞いた。

<有害だと感じた理由>

書き込みにより個人の悪口等を載せるのは、卑劣である。

<取り組んだ事例>

この事についてはないですが、携帯電話での出会い系サイト等による被害などの事例の

講習会を聞いた。

<行政や業界へ望むこと>

青少年者の携帯電話やインターネットでの各サイトへの接続ができない様にならないか？難しいとは思いますが、何とかして欲しい。

(高知県・男性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

無料を謳うゲームDLサイトを子どもが使用し高額の通話料（通信パケット料）を請求された。

<有害だと感じた理由>

無料の意味を正しく伝えず判断力の足りない子どもたちを囲い込んでいる。

<取り組んだ事例>

接続制限。

<行政や業界へ望むこと>

通話料の目安を無料の下に必ず入れる。費用がかかるだけでは伝わらない。

(大阪府・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

他人のメルアドを勝手に用いて、第三者にメールを送り、嫌がらせをする「なりすましメール」を使ったイジメ。

<有害だと感じた理由>

本人が知らぬのに、自分のアドレスが勝手に使われ、悪口をいずれも自分がやったかのようにされ、友人関係が険悪になるため。

<取り組んだ事例>

利用された者が被害や苦しみを簡単に相談出来ないことが事件解明の難点。

<行政や業界へ望むこと>

簡単な悪用だけに解決は難しいが、本人だけのシークレット機能が出来るように業者に工夫を要望。

(山形県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話のサイトには、明らかに青少年の健全育成にとって有害なものがある。例えば「プロフ」。自らの裸体を堂々と掲載しているものが多いことに驚かされる。また、出会い系サイトにつながるパターンがほとんどであり、成人の私でさえ、試しに見てみたことが後ろめたくなった。また研修会で、「モバゲータウン」など一見有害サイトとは思えないサイトも問題があることを知った。

<有害だと感じた理由>

青少年が個人情報在不特定多数の者が閲覧するネットへの提供に全く危機感をもっていないこと。ネット上という仮想社会に入ることによって犯罪という意識をもたないことが問

題であると感じる。

<取り組んだ事例>

小・中学生の子をもつ親に対して、フィルタリングや情報モラルについて啓発を図るため、県が作成した啓発パンフレットを配布したり、PTAの研修会等で折りにふれて話をした。

<行政や業界へ望むこと>

もはや啓発の段階ではないと思う。携帯の問題は、法的整備が非常に遅れていると思う。小学生向けには「キッズケータイ」、高齢者向けには「らくらくフォン」などの機種があるのに、中高校生は成人と同じ機種であるのが問題だと思う。未成年向けの機種は、限定するべきで、機能も大幅に制限して、有害サイト（プロフ等も含めて）につながらないようにするべき。法的措置の必要があると思う。業界も考えるべき。

(山口県・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話に迷惑メールが入って来る（パソコンからのメールは拒否していますが自分のアドレスで送られて来るものを拒否出来ないので毎日1～2通多ければ5～6通送られてくる）これと同じ事をよく耳にします。

<有害だと感じた理由>

勝手に送られて来るメールに反応してしまう可能性があるし、料金が知らない間にかかっていたらと思うと恐ろしい。

<取り組んだ事例>

携帯会社に相談して迷惑メールが入らないように設定しましたが、自分のアドレスでのメールには対処出来なかった。

<行政や業界へ望むこと>

取締りを強化して欲しい（罰則を課するなど）。

(愛知県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

高校生（女子）の子どもが家出したが、保護者は友達関係等が全く分からなかった。

<有害だと感じた理由>

保護者（家族）は少年の携帯は個人の物であるとの考えから出たことが無い（家の電話には友人からかかって来るのが無い）。娘と携帯さえつながれば安心している大人の考えも多い。

<取り組んだ事例>

親、家族に対しての情報提供。

<行政や業界へ望むこと>

実際に携帯を使つてのネット等の危険性についての指導強化をあらゆる機会をとらえて実施して欲しい。

(岩手県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

相手の表情や仕草から察することのできる非言語的表現が読み取れずに会話が成立しない。そのため不用意な行き違いを発生させている。

<有害だと感じた理由>

短いメールのやり取りで成立しているケータイコミュニケーションが対話能力を低下させているように思えた。同じ言葉でも声のイントネーションで違う言葉になる。

<取り組んだ事例>

子どもには読書をさせ、感想を聞くようにしている。できるだけ対話をするようにしてケータイからの情報伝達ではなく自分の考えで話すことを話し合っている。

<行政や業界へ望むこと>

既に新しいコミュニケーションの手段となっているのだから利便性ばかり周知するのではなく、伴うリスク教育も徹底してやって欲しい。

(茨城県・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

中・高等学校裏サイトというものがあります（私も見ました）。子どもがいいのかなって感じで、こなんん出ているけど、と言いついて見せてくれました（子どもとはたくさん話をしています）。学校の爆破予告でした。すぐさま警察に通報しました。当日学校は臨時休校になりました。書き込んだ本人は退学したそうです。

<有害だと感じた理由>

個人を中傷することなども、たくさん書き込まれています。個人を集中的に攻撃する文章です。

<取り組んだ事例>

取組としては、今のネット社会には入り込めません。

<行政や業界へ望むこと>

ネット犯罪が多い中、行政に託すほかありません。我々では手が出ません。

(岐阜県・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

出会系のスパムメールが1日に数本送られてきた。

<有害だと感じた理由>

「あなたが〇〇女性のHの相手として選ばれました」という内容のメールが入った。これらの内容のメールが無差別に送られたとすると、子どもにとって有害だと思う。

<取り組んだ事例>

メール削除。

<行政や業界へ望むこと>

有害メールを規制して欲しい。小中学生に携帯を持たせない方が良い。

(北海道・男性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

無料だと思っていたら携帯電話ゲームの高額請求に驚いた。

<有害だと感じた理由>

携帯は便利だけど犯罪に結びつく。

<取り組んだ事例>

携帯電話を使っているか家でも話しあえるように料金チェックが必要である。

<行政や業界へ望むこと>

保護者も理解をしアクセスを制御する。

(愛媛県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話に一度天気予報のメールが届き一度クリックしたらそれからアダルトなメールが届くようになった。迷惑メールに登録してもアドレスを変えてメールが届く。今でも届き続けている。

<有害だと感じた理由>

届くメールすべてが援助交際のメール。

<取り組んだ事例>

アドレス、ドメイン拒否をしても届く。自分のアドレスは仕事でも利用しているので変える事ができない。

<行政や業界へ望むこと>

迷惑メールが来ない様にして欲しい。最初に自分がクリックしたから届くのだと思うが不愉快である。

(大阪府・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

母親より聞く。高一の女子生徒、携帯電話によるいじめに合い、登校拒否から学校を辞める。

<有害だと感じた理由>

ネットのいじめにて学校を辞めたのにメールにて知り合う他県の子と友達になり一日中携帯を離せなくなる依存症。機械上のコミュニケーションは心の病になってしまうこと。

<取り組んだ事例>

子ども達、保護者等にて、携帯安全利用の使い方を実施していますが地域の大人達にも分っていただく為に講習会等をしています。

<行政や業界へ望むこと>

マナーの問題と思いますが自動車運転中の携帯使用、規制がありますが見かけることが多く、もっと厳しくしてはと感じております。

(茨城県・女性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

中学校の生徒のブログで、同じ学年の生徒を誹謗中傷する内容を書き込んでおり、いじめにつながっていた。

<有害だと感じた理由>

内容に個人名が記載されていた。

<取り組んだ事例>

すぐに当該校の校長に連絡し、生徒指導を行ったらその書き込みがすぐに削除された。

<行政や業界へ望むこと>

青少年に対するメディア関係の規制を厳しくすること。

(山口県・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

中学生が携帯電話で悪質なサイトにアクセスし金銭トラブルになった。

<有害だと感じた理由>

フィルタリングの指導が絶対に必要。

<取り組んだ事例>

学校等で携帯電話での危険性について子どもたちに話す機会を持つ。

<行政や業界へ望むこと>

法令により出来る限り規制をすること。

(高知県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話を所持している14才女子が登録しているゲームサイトにおいて、ゲーム内でやりとりできるメールが届きました。相手のプロフィールを見ると、登録年齢は18才。しかし自己紹介文には「21才の社会人です。」と書かれていました。メールの内容は「直接会えないかな？」というものでした。年齢を偽り中学生に会おうとするメールを送ってきていました。

<有害だと感じた理由>

ゲームサイト内での(ミニ)メールの内容は、他の携帯から女子のプロフィールを訪れても内容を確認することができないため、親や大人が見守る事が出来ない、完全に1対1の密室でのやり取りになってしまう。大人と子どもが混在して遊べる、つながる所が有害だと思う。判断力が未熟な未成年者が、寂しいと感じたりストレスを抱えていたりする時、もしかしたら、悪意をもった大人と直接会ってしまい、犯罪に巻き込まれる可能性は昨今のニュース等をみれば、うなずけるのではないだろうか。また、これらゲームサイトと言われているものは、フィルタリングにも関係していて、何故か”健全サイト”とされフィルタリングを掛けていても入ることができてしまう。

<取り組んだ事例>

簡単におもちゃを与えるように子どもに携帯を買い与えることへのリスクを、1人でも多くの親や大人に知ってもらうため、講演会等を行っている。実際周りの携帯を持って

いる未成年者に尋ねると、こうした大人から「会わない？」というメールは意外と多いので、直接会う危険性についての啓発をしている。

<行政や業界へ望むこと>

講演会等でアンケートをとるが、集計してみると意外に多いのが「これだけ犯罪や事件が起きているにもかかわらず、何故きちんとした法整備がされないのか。もっと国や企業も巻き込んだ法整備が必要に思う。」という意見だ。ここまできて子ども達に制限をきつくするのは大変難しい事は承知の上だが、親として見るならば、子どもたちの安全（命）を守るためなら、未成年者への携帯のiモードは外すことが何より大事な健全育成につながると思う。

(群馬県・女性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

高校生が登下校中、歩きながら自転車に乗りながら使用している状況あり。中高生の携帯所有率が高くなっている。電話料金が高額になっている状況を聞いている。高校生の姿を見るたびに“携帯電話使用中”という状況である。

<有害だと感じた理由>

必要以上に携帯を使い直接対話しない、又、集団とのかかわりも希薄になっているし人間関係を築く上でもマイナスである。メールでの情報交換が中心であるし、誰と通信しているか分からないだけでなく危険な誘惑やいじめにつながっている。

<取り組んだ事例>

関係機関への情報交換を含めた会議や啓発のためのパンフレット配布又は情報誌を作成し配布している。学校単位(又は地域公民館等)の保護者向け講演会に講師を紹介し、携帯電話関連のテーマで講演会を開く。

<行政や業界へ望むこと>

規制の強化や悪質なサイトの摘発に力を入れて欲しいし、行政、業界のきめ細かな指導を上げて欲しい。学校でも「学力」偏重でなく、これらの問題を授業等で取り扱っていくべきだ。

(鹿児島県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話に、多額の金額を振込みますというメールが届いた。内容は、〇さんがあなたに5,000万のお金をご用意しております。下記までご連絡下さい。アドレスなど。ポイントを購入するとこの相手とメールで話せるという仕組み。

<有害だと感じた理由>

お金欲しさに子ども、青少年が安易にアクセスしてしまう可能性があるから。また、アクセスしてしまった場合、更に他の事件に巻き込まれかねない。

<取り組んだ事例>

携帯の機能にある、迷惑メール設定をした。が、相手はドメインを次々と変えて送信してくるため、いちごっこのようになった。最終的には、携帯に登録していないアドレ



スは、全て拒否することになった。

<行政や業界へ望むこと>

このようなメールが届いたのは初めてだったが、ドメインを設定して拒否にしても次から次へと送られてくるため恐怖を感じた（なかには、自分の名前が記入されていたものもあったので）。一度拒否したパソコンなどに対して、アドレス設定ではなく、そのメールを出しているパソコン自体を拒否できるようなシステムを導入して欲しい。

（高知県・女性・30代）

<有害情報を得たときの状況>

昼夜問わず連絡が出来る為、深夜でも連絡を取り合っている。携帯サイト（出会い系）で第三者等、面識の無い者との出会い。青少年にふさわしくないサイトの閲覧（有害情報）。

<有害だと感じた理由>

親、家族を通さず時間を気にせず連絡をする事はマナーや心遣いが育たない。必要外の情報の入手、必要以上のコミュニケーションによる害。

<取り組んだ事例>

携帯サイトのフィルタリング（携帯の利用日、時間を設定）。

<行政や業界へ望むこと>

法的に未成年専用の携帯を！サイトへアクセス機能なし等。親の任意による制限ではなく、法的に機種制限。

（千葉県・男性・40代）

<有害情報を得たときの状況>

息子が中学時代、同じ部活の仲良しの子どもたちが、帰り道仲間同士でケンカになりだんだんイジメに発展し、ある日1人の子を5人がイジメているシーンをクラスの子どもたちにメール送信した事件がありました。

<有害だと感じた理由>

ケンカやイジメはいけないことだけれども、それによって相手の気持ちがわかったり反省するけれども、その姿を卑怯にも何も知らない第三者に送ってしまうというか、送ることができることに問題を感じます。ルール、マナーが使用する者には必要である。

<取り組んだ事例>

保護者同士の話し合いと中学生の携帯電話を持つことへのルールとマナーの徹底。学校で携帯を持たせない。携帯は学校では不要の声かけ指導。

<行政や業界へ望むこと>

便利なものだけに使い方を間違えると多くの方々に被害を与えます。使用上の注意、モラルの指導、危険があるということを広く知らせていただきたい。

（静岡県・女性・40代）

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話を小学生から持たせた子どもは、高校から持たせた子どもよりも携帯電話による事件等を起すことが比較にならない程多い。

<有害だと感じた理由>

親が子どもに対する躰（約束事を守らす事）ができない。目が届かない。

<取り組んだ事例>

P T A等との会議にて提案したり、センターだより等で啓発している。

<行政や業界へ望むこと>

今後、まだまだ携帯電話による犯罪は増え、巧妙化するのを外国のように、法規制を遅れないように先手を打って頂きたい。

(滋賀県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

ストーブを囲んで、クラスメートの男子が6人おります。立っている子、椅子に座っている子、床に寝そべっている子といて、全員「携帯とにらめっ子」。去年は驚きました。休み時間のごくごく当り前の情景です。友人とメールはするが、目の前の友人とは会話ししない。なじめない情景です（20才前後の学生たちです）。

<有害だと感じた理由>

対面での会話ができないのでは、人とのコミュニケーション、人間関係の結びつきも希薄になってしまうと思われます。

<取り組んだ事例>

話かけをするよう努めています。

<行政や業界へ望むこと>

「もっと、隣の友人と話し合おう」の様な、キャンペーンが必要なのでしょうか。

(茨城県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

自転車を運転しながら携帯でメールを打っていた高校生が電柱に接触したのを見た。

<有害だと感じた理由>

自損事故でケガもなかったのが良かったが、他者を巻き込むような事故につながることを心配する。

<取り組んだ事例>

市内の高校各校に行き、上記の実態を話し、嚴重注意をするよう校長及び指導担当者に強く要請した。

<行政や業界へ望むこと>

啓発情報を保護者へも発信してもらいたい。

(新潟県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

女子高生が知らない間に携帯アドレスを友人が大学生（男）に教えストーカーされ身の危険を感じた。その少女は自分の友人の中に教えた者がおりそれが誰なのかわからないためストレスとなり医者に行った。

<有害だと感じた理由>

「会わないと家に行く」「高校に行く」とおどすこと。「誰がアドレスを知らせたのか」という不信感と身の危険を感じる程の恐怖。

<取り組んだ事例>

少女の両親が警察と相談し保護してもらおうよう依頼した。いきさつを聞き私の関わっている少女や日本連盟の機関紙に注意するよう伝えた（プライバシー問題、守秘義務等）。

<行政や業界へ望むこと>

携帯売る業者、IT関係、学校、親がそれぞれ問題に対してますますの情報管理が必要。  
(兵庫県・女性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

着うたダウンロード無料の携帯サイトに登録すると自動的に出会い系サイトに登録され、子どもに有害なメールが多数送信されてくる。

<有害だと感じた理由>

子どもは、好気心から出会い系サイトなどを見に行ってしまうから。

<取り組んだ事例>

自分の子どもには、無料サイトの奥に危険が潜む事を伝えた。

<行政や業界へ望むこと>

子どもの興味のある「着うた」などに登録した情報が有害サイト（出会い系など）に流出しない措置をお願いします。

(石川県・男性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

毎日のように携帯電話へスパムが届きます。

<有害だと感じた理由>

騙そう、お金を取ろう（アクセスさせよう）とするメールが連日のように来ます。暴力やお金、性的な内容のものを見たくもないのに毎日読まされています。イライラしてしまい、気分も暴力的になります。

<取り組んだ事例>

フィルタリング、ブロッキングをかけてなるべく目に届かないようにしているが、それでも目に入ってくるのがたくさんある。

<行政や業界へ望むこと>

不必要なデータが目に入らないようにして欲しい。また、大人はさておき青少年には引き続き一層の有害情報に対しての心の対策、豊かな心、規範を育む教育を続けて欲しい。

(愛知県・男性・20代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話サイトによるアダルト画像、動画などの閲覧行為（特に春時期は中学校を卒業する生徒が携帯電話を購入するハイシーズンで、男子児童などに画像を見せびらかすシーンが地域でも時折見られる）。

<有害だと感じた理由>

①パソコンのインターネット閲覧に関しては管理者が規制（フィルタリングなど）をかけることが全国的にも広まってきたが、携帯電話では管理者＝所有者である。②機種ごとの制限設定がこの所有者の意思によるため、親世代よりも携帯の機能に詳しい中高生世代が「規制ナン設定」で契約を交わしていることが原因と推測される。

<取り組んだ事例>

口頭での注意。どのような大人側からの規制をしても抜け道は必ずあり、道徳観や倫理観を育てることに主眼を置くことこそが必要と思われる。一方、今後ますます携帯電話を所持する年齢の低下が予想される。年齢に応じたインターネット設定のしかた、またはモラルのありかたを大人自身が学ぶ必要があるが、現段階では個人レベルに留まっている。地域単位（子ども会、行政区、学校区、PTAなど）でのインターネット教室やフィルタリング講習会などの自主的開催が望ましい。

<行政や業界へ望むこと>

①フィルタリングなどの操作が簡易なソフトの開発。②年齢別に応じたサイト閲覧が可能な携帯機の導入。③積極的なインターネット講習会、ケータイ安全教室の実施（子どもは学校で、保護者はPTAなどで実施されてはいるものの、一方向のみ、という形態が課題と思われる。親子で考え合うまでにいたっていない）。

（岩手県・男性・30代）

<有害情報を得たときの状況>

一人の女子高生が、携帯電話の出会い系サイトで、駅で有職少年と待ち合わせをして、迎えに来た彼の車に乗って行った。すぐ該当校に連絡がいき補導されたとのことである。

<有害だと感じた理由>

判断が甘く、興味本位で誰とでも出会え、多くの場合無防備状態というケースが多い。性犯罪、性被害につながる可能性が充分にあり、実際にそうなった例もある。

<取り組んだ事例>

ネット社会の生き方、携帯電話の有害部分等の講習会、研修会で、学習を深める。青少年健全育成協議会等で各駅に立ち、マナーアップ運動をしながら、犯罪が起りにくくしている（皆の目）。

<行政や業界へ望むこと>

有害サイトと思われるファイルにつながらないように、携帯にフィルターをかけることを義務化（小・中・高生）する。携帯電話そのものを使用制限のあるものしか購入できないようにする（法律化）。

（鳥取県・男性・70歳以上）

<有害情報を得たときの状況>

知人から相談された。知人の子どもさん（中学生）が携帯電話のサイトに、ケンカした友達が以前ふざけて撮った写真を勝手に（腹いせ？）にアップされた。

<有害だと感じた理由>

携帯電話の普及が速く、モラルを青少年特に小・中学生まで徹底できていない現状を知り、さらに問題が深刻化していかないかと心配した。

<取り組んだ事例>

相談された時に、やっぱり学校にも相談したほうがよいと助言した。

<行政や業界へ望むこと>

携帯についてのマナーも家庭、学校で教えなければいけないが、もっと根本的ないわゆる道徳について子どもたちが理解納得できるような方法を考える必要があると思う。

（愛知県・女性・40代）

<有害情報を得たときの状況>

携帯電話は小中高生が保有し、会議や研修会で種々な事例等をお聞きしたが、子どもたちは携帯電話に関心を持ち、また携帯電話の持つ機能を修得するのが早くインターネット等の情報に関心を持っている。

<有害だと感じた理由>

子どもたちは、大人（親）の知らない場所や友達同士でゲーム感覚で使用し、深みに入り込んでいく可能性がある。保護者が無関心であればその結果、犯罪に巻き込まれていく可能性がある。

<取り組んだ事例>

育成部会を年4～5回程度開催し、学校・警察・地域と連携し情報交換や、子どもたちの見守り、地域の防犯活動に取り組んでいる。また、校区内に中学校があることから、中学校区内（3校区）の育成部長と警察、中学の先生と連携し年2回程度の情報交換等の会議を開催し、犯罪防止と青少年の健全な育成に取り組んでいる（他には毎月1日、20日と毎週金曜日お巡りさんと一緒に立番し登校の見守りと青色回転灯装着した車による登下校の巡回）。

<行政や業界へ望むこと>

携帯電話の犯罪等防止のため、小中学校の教育の中で取り組むことが出来ればと思う。また、地域や保護者に定期的に講演会やチラシ、ポスターによるPRが必要である。

（福岡県・男性・70歳以上）

<有害情報を得たときの状況>

市内の携帯電話販売店の方に話を伺いました（複数店舗にて）。21年4月の青少年が安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律の施行後、フィルタリングの利用状況について話を聞いた。

<有害だと感じた理由>

初めての購入の場合100%フィルタリングを利用するが、一週間程度で保護者がフィ

ルタリングの解除を申し出るケースが多い。フィルタリングのため、特定サイトにつながらないのが理由だそうだが、そのために全てのフィルタリングを解除するのは問題。また、保護者が危険性を認識していない。

<取り組んだ事例>

インターネット利用安全安心講座に多くの保護者が参加できるよう呼びかけた。

<行政や業界へ望むこと>

フィルタリングがかかっているにもかかわらず、特定のサイトだけ閲覧を許可できるような柔軟な運用ができるといいと思います。

(愛知県・女性・30代)

<有害情報を得たときの状況>

テレビのニュースや新聞等から色々な情報が入ります。携帯電話やインターネットに関する講演会参加により知識を得た。

<有害だと感じた理由>

青少年は興味本位で有害サイトを見てしまう危険がある事、大人（親）たちが表面では発見できない危険が携帯電話に潜んでいる事が問題である。

<取り組んだ事例>

町の広報座談会で子どもを持つ保護者に対して子どもたちを有害情報から守るため携帯電話を持つ青少年には、フィルタリングのサービスを活用する様呼びかけた。

<行政や業界へ望むこと>

「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が昨年4月1日に施行されましたが、まだ充分であると思えません。

(群馬県・男性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

少年の指導をする中で、携帯が持っている機能が広域である為に不良集団の形成を助長している。又、対象者の中には出会い系での被害者もいる。

<有害だと感じた理由>

活動範囲が広くなり、深夜徘徊等に影響を与えている。情報伝達も早く、指導も困難であるし、ゲーム等による通学への意欲を欠く原因にもなっている。裏サイトの利用もある。

<取り組んだ事例>

電話料の不払いで不通にしてもらった。電話機契約を取り消した。いずれも親に対して依頼。但し、暴力を母親にした例もある。

<行政や業界へ望むこと>

行政は親に対する（少年に持たせる場合の）法規も必要ではないか。業界の建前は規制できるようにしているが甘いと思う。行政指導を。

(福岡県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

携帯サイトで知り合った異性からお金を求められ、支払わないと脅かされて恐くなり要求に応じた。未成年者同士で犯罪を意識せずの行動だが、親は知らない。

<有害だと感じた理由>

未成年者が、簡単に携帯を持ち高額な料金を親に支払わせながらゲーム感覚で行動がエスカレートする。

<取り組んだ事例>

本人の親へ連絡し親子と一緒に警察へ相談に行った。

<行政や業界へ望むこと>

青少年が悩み、親や教師に言えない時相談しやすい相談機関の充実を図る。

(石川県・女性・60代)